資料7

府中市都市・地域交通戦略【分倍河原駅周辺地区】の改定について

1　趣旨

本市では、平成３０年５月に分倍河原駅周辺地区を対象とした、府中市都市・地域交通戦略【分倍河原駅周辺地区】（以下「交通戦略」といいます。）を策定し、府中市の中心市街地を補完する拠点としてふさわしい交通基盤を備えたまちへの更新に向けて、分倍河原駅を中心とした駅周辺のまちづくりを進めてきました。

また、令和４年９月には鉄道事業者との基本協定を締結したことにより、事業が具体化し、今後のスケジュールがより明確になってきました。

そのような状況の中、施策の実施状況等を評価した結果、実施プログラムのスケジュール等を見直すとともに、交通戦略策定から５年以上が経過しており、各種計画の策定状況やデータについて時点更新を行うことから、交通戦略を改定するものです。

2　概要

⑴　府中市の都市・交通基盤と交通戦略の役割等　（本文掲載１～３ページ）

ア　府中市の骨格構造と交通基盤　（本文掲載１～２ページ）

本市の都市基盤と拠点の状況及び交通基盤の状況を示した上で、分倍河原駅周辺地区を対象に交通施策を進めることが、重点的に取り組むべき課題であることを示しています。

イ　都市・地域交通戦略の概要　（本文掲載３ページ）

交通戦略の位置付けと役割を示すとともに、交通戦略の目標年次を令和１８（２０３６）年度とすることを示しています。

⑵　対象地区のまちづくりの概況、課題等　（本文掲載４～９ページ）

ア　対象地区の設定とまちづくりの方針　（本文掲載４～５ページ）

分倍河原駅周辺地区で交通戦略を策定する理由と同地区の範囲を示すとともに、交通戦略の上位計画に示される同地区のまちづくりの方針を示しています。

イ　分倍河原駅周辺地区の特性と住民ニーズ　（本文掲載６～７ページ）

分倍河原駅周辺地区の特性及び住民のニーズを、データを基に分析しています。

ウ　分倍河原駅周辺地区の課題　（本文掲載８～９ページ）

分倍河原駅周辺地区の課題を、交通手段別に示しています。

⑶　対象地区の将来像に向けた戦略　（本文掲載１０～２０ページ）

ア　分倍河原駅周辺地区の将来像　（本文掲載１０ページ）

分倍河原駅周辺地区が目指すべき将来像を「にぎわいがつながり・ひろ

がる　歩行者中心の　人に優しい　コンパクトなまち」とするとともに、次の３つのまちづくり方針を定めています。

㋐　生活サービスが整い、多くの人たちでにぎわうコンパクトなまち

㋑　誰もが安全・便利に移動できる歩行者中心のまち

㋒　交流や憩いの場があり、安らぎを感じられる人に優しい快適なまち

イ　分倍河原駅周辺地区の戦略目標　（本文掲載１１ページ）

分倍河原駅周辺地区が目指すべき将来像を実現するために、同地区の地域特性や同地区が抱える現状の課題を踏まえて設定した、次の３つの戦略目標を定めています。

㋐　安全・安心して歩いて楽しめる駅周辺地区・駅前空間の形成

㋑　安全・便利に利用でき、歩行者と共存し得る自転車利用環境の充実

㋒　利便性・快適性・分かりやすさを備えた駅・交通基盤への改良

ウ　戦略目標の達成に向けた施策　（本文掲載１２～１７ページ）

３つの戦略目標ごとに、各目標が達成された姿を示した上で、施策展開に向けた基本的な考え方と具体的な施策を示しています。

エ　実施プログラム　（本文掲載１８～１９ページ）

ハード整備を伴う既存機能の拡充・再編を行う令和９年度までのステップ１と、大規模改修を伴う新たな拠点の形成を図る令和１０年度から１８年度までのステップ２に分けて、各施策を実施するプログラムを示しています。

オ　分倍河原駅周辺地区における施策の取組状況　（本文掲載２０ページ）

課題の解決に向けて、交通戦略に基づき進めてきた施策の取組状況を示しています。

⑷　評価とその後の展開　（本文掲載２１～２６ページ）

ア　評価指標の設定　（本文掲載２１～２５ページ）

戦略目標の達成度合いを定量的に把握し評価する、８つの評価指標と目標値を定めるとともに、評価指標と目標値及び各施策との関係性を示しています。

イ　交通戦略の推進（事後評価）について　（本文掲載２６ページ）

交通戦略をＰＤＣＡサイクルにより推進することと、その推進体制を示しています。

３　今後の予定

交通戦略（案）について、令和６年１１月下旬から同年１２月下旬までの期間でパブリックコメント手続を実施し、市民からの意見等を反映させた後、令和７年３月に改定を行います。また、令和７年度末を目途に国土交通大臣による再認定の取得を目指します。